

令和5年度

学校評価

アンケート・自己評価

(生徒・保護者) (教職員)



上勝町立上勝中学校

考 察

教職員による自己評価と生徒・保護者による学校関係者評価は、概ね似た傾向にある。

『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が8割を越えていない項目は、以下の項目である。

- Q 1「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」
- Q 2「生徒は早寝・早起き・朝ごはんを意識した生活を送ることができている。」
- Q 7「生徒は自分で決めた時間は家庭学習に取り組んでいる。」
- Q 8「生徒は授業において、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることができている。」
- Q 9「学校は、GIGAスクール構想を推進し、タブレット端末の活用を積極的に行っている。」
- Q 20「学校の部活動は、充実して楽しい。」生徒
- Q 21「学校を休んだ時、不安なくまた登校することができる。」生徒
- Q 22「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」生徒

『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が9割を越えている項目は、以下の項目である。

- Q 3「中学生としての社会的なマナーを身につけている。（時間、服装など）」保護者
- Q 10「地域にあるものを活用したり、地域の人と一緒に学んだり、地域の良さを活かした学習ができている。」生徒
- Q 11「出前授業やGXスクールの取組は、将来の生き方や進路についてイメージをもつことに役立っている。」保護者
- Q 12「学校は、道徳教育や人権教育、生徒の個性に合わせた指導を充実させている。」生徒
- Q 13「学校の給食の時間は楽しく充実し、食への興味関心が高まっている。」保護者
- Q 14「学校は、一人一人を大切に学級づくりと支え合う集団づくりを行っている。」生徒
- Q 16「学校は、それぞれが持ち味を發揮し成長する、高め合う集団づくりを行っている。」生徒
- Q 17「学校行事は、充実して楽しい。」保護者
- Q 18「学校は、生徒の主体的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」保護者
- Q 19「学校の部活動は、充実して楽しい。」保護者
- Q 20「学校を休んだ時、不安なくまた登校することができる。」保護者
- Q 23「学校の先生は、生徒の人権や個性を大切にしている。」生徒・保護者
- Q 25「学校は、施設・設備の整備に努め、安全で整った教育環境をつくっている。」保護者

Q 10、Q 11からは、地域のよさを生かした学習や出前授業、GXスクールの取組が効果的であったことがわかる。いろいろな取組を行動制限なく行えたため、保護者にも「学校行事は、充実して楽しい。」(Q 17)と感じてもらえたようである。保護者や地域の方の協力を得て展開した「スーパーとくしまGXスクール」の成果を、来年度へ生かしていきたい。

Q 12、Q 14、Q 16からは、一人一人の生徒を尊重し、個性を生かした教育活動を行っていることが肯定的に捉えていただいていることがわかる。また、それが自他を認め合う集団づくり、仲間づくりにつながっていることもわかった。生徒・保護者共に「学校の先生は、生徒の人権や個性を大切にしている。」(Q 23)に肯定的に回答してくれているのは嬉しい限りである。

今後、人権教育の充実を図ると共に地域と協働する行事等の中で生徒の自尊感情を高め、「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」の育成をめざして、人権教育を推進したい。

来年度に向けての課題は次の5点である。

1 生活リズムの整った環境づくり

Q 2、Q 7は肯定的な回答が8割に満たなかった。生活リズムを整え、睡眠、食事、家庭学習の時間を確保することが大切である。そのためにも、「生徒は目標をもって日々、学校生活を送ることができている。」(Q 1)環境を作り出すことが課題である。

2 自分の考えを相手にわかりやすく伝える学習活動の充実

学習面では、Q 8「生徒は授業において、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることができている。」は、生徒、保護者、教職員共に肯定的な回答が8割に満たなかった。タブレット端末の活用(Q 9)も進めながら言語活動の充実を図り、自分の考えを相手にわかりやすく説明する力を育みたい。学習指導は、一朝一夕で成果が上がるものではないが、生徒たちが「わかった」「できるようになった」といえる授業を実践できるように、少人数であることの利点を生かしたきめ細かい指導の在り方について、今後もさらに研究を進めていく必要があると感じた。

3 GIGAスクール構想の実現に向けた取組の推進

Q 9「学校は、GIGAスクール構想を推進し、タブレット端末の活用を積極的に行っている。」は、生徒、保護者、教職員ともに、肯定的な回答が8割に達していない。プログラミングの出前授業や、ドローン操縦体験などを通してSociety 5.0を照準に入れた取組は設けているが、学習活動においてタブレットを文房具として使う段階までは至っていない。来年度の課題である。

4 生徒主体の活動のさらなる推進

Q 18「学校は、生徒の主体的な意見を取り入れて、学校行事等を行っている。」は、生徒の88%、保護者の90%が肯定的な回答であるが、教職員は75%である。新型コロナウイルス感染症5類移行後初めての活動も多かったため、生徒が主体的に活動できるように教職員の発案やサポートが行き届いていたためであると思われる。来年度は生徒の企画による修学旅行のコース設定も考えている。生徒会活動とも関連付けながら、生徒の活躍の場を増やしていきたい。

5 相談しやすい雰囲気作り

Q 21「学校を休んだ時、不安なくまた登校することができる。」、Q 22「学校は、いつでも相談しやすい雰囲気がある。」を課題に感じている生徒が一定数いることがわかる。Q 21やQ 22のように、学校が一人一人を大切にしていると感じてはいるものの、生徒が悩みや困りごとを相談するには工夫が必要であると思われる。今後も、温かな雰囲気の中で、生徒たちが「安心して学校生活を送ることができている。」と感じることができる、人権尊重を基盤とした学校をつくっていきけるように継続して努力していきたい。

学校運営協議会委員からの意見

- ・研究指定はなくなっても、今年度のスーパーとくしまGXスクールの取組を続けてほしい。
- ・検察庁の出前授業をきっかけに検察官や検察事務官を志す生徒が生まれたように、出前授業が生徒の進路につながっている。
- ・これからもみんなで学校を楽しくしていこうという思いをもってほしい。